



守ろう！非核「神戸方式」広げよう！全国、世界へ

非核「神戸方式」は、唯一の被爆国である日本が国是とする非核三原則（核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず）を、自治体として実行するものです。今の政府は「武器をもって相手を制する」として軍事拡大に力を入れています。私たちは今、武器ではなくこの非核「神戸方式」の命をかけた闘いのように、ひとりひとりが戦争はしない！核をつくらない！と声をあげ、全国へ、そして世界へと広げることが、次の世代を生きるすべての子どもたちへの大人の責任だと感じています。そんな思いを込めて企画しました。

【朗読劇がよくわかるストーリー】

1950年に朝鮮戦争がはじまりました。

神戸港は、完全に米軍により占領され支配下におかれ、米軍の暴力や発砲事件など横暴が後を絶ちませんでした。港で働く人たち（港湾労働者）は、「クリスマスだけでも平和に過ごしたい」とクリスマス闘争へと運動を進めました。そして、クリスマスだけは軍艦は入港しなくなりました。



しかし、その喜びも束の間、第六突堤は、アメリカ軍の第七艦隊の補給、輸送、休養、慰安の基地として存在し続けました。水深最大の岸壁である第五突堤は米軍の大型空母が優先使用され、港湾労働者たちは自動小銃を持った米軍に監視されながら、朝鮮戦争で亡くなったアメリカ軍の冷凍死体の運搬、不発弾の処理など命の危険極まりない船内作業が昼夜を問わず行われていました。命の危険と「自分たちは戦争に加担しているのではないか？」という労働者としての誇りを奪われるこの過酷な労働への怒りは、労働条件改善運動から軍事基地反対運動を市民とともに闘う運動へと発展していきました。その運動は、神戸での広島、長崎の被爆者救援の六・九行動を起こし、労働者と市民が一つになった市民運動へと広がっていきました。そして、この粘り強い運動の発展は、神戸市民の非核世論となり革新市政を誕生させました。そして、第六突堤の完全返還をかちとり、神戸港からアメリカの軍事施設は姿を消しました。



その年に、アメリカ軍のラロック元提督が「日本の港に寄港するアメリカ艦隊は、積んでいる核兵器などおろしたりはしない」と証言しました。そして、原子力船「むつ」の神戸港入港の反対運動が起こりました。

ラロック元提督の発言を受けて革新市長は、議会で「私は、港湾管理者の立場として、この問題が正確に解明されない以上、この艦艇の入港に対しては拒否する」と答弁し、神戸市議会は、1975年3月18日に「核兵器積載の神戸港入港拒否に関する決議」を全会一致で採択しました。市民と市長、そして市議会が作り上げた非核「神戸方式」の誕生です。それ以来、神戸港には核兵器を搭載した艦艇は一切寄港していません。

当日の舞台では、保育現場で働く職員が2か月間かけて非核「神戸方式」の意義と歴史を学びながら朗読劇を作り上げました。この運動の中で生まれた「波よひろがれ」の歌も合唱団とともにお届けしたいと思います。

【朗読劇に出てくる場所と言葉の解説】

*六突って？

「神戸港 第六突堤（とってい）」を「六突」と呼んでいました。
神戸港の新港地区に1936年に建設された歴史ある港湾施設・埠頭で、戦後、米軍に接收され、米軍専用の修理・補給基地などとして利用されていました。

*「みみちゃん像」って？

南京町の西安門にある平和の「みみちゃん」像は非核「神戸方式」の記念碑として当時の市民が資金を集めて平和を大切にする神戸の港のシンボルとして作られました。
神戸華僑歴史博物館敷地内にあります。
(中央区海岸通3丁目1-1)



*6・9行動って？

8月6日（広島）9日（長崎）は、アメリカが投下した原爆によって20数万人の尊い生命が奪われました。この惨禍を繰り返さず、核兵器のない日本を実現するために、毎月6日と9日に全国の地域、職場などで、「6・9行動」として核兵器廃絶の署名や被爆者の援護・連帯募金行動を行なっていました。

「波よひろがれ」へのおもい・・・

この歌は非核「神戸方式」の運動の中でうまれた歌です。1番は神戸から、2番は日本中に、3番は世界へ 非核「神戸方式」が波打つように広がり、平和な地球を子どもたちに渡せるように。という強くおおきな願いが込められています。

波よひろがれ

小森香子 作詞
きたがわてつ 作曲

G Am7 D Daug G

みど り つ ら な る
お い ち き ゅ の
あ な つ の う み に
ろ っ こ う の や く ま あ
へ い わ の な み み は
お は

Em Em7 C D7 G

く ひ ろ が る
ない る う み を
い に ひ ろ が れ
こ う べ の み な と
け が す の は い な
か く の ない みな と

Am Em C D7

あ の や ま が い つ ま で も ー か が や い て ー い る よ う に
た ゆ ま ぬ へ い わ の し ょ め い く に じ ゅ う の ー こ え あ つ め
こ え を あ げ さ し の べ る ー あ つ い て を ー に ぎ り し め

Am Em C A7 D7

こ の う み に と こ し え の ー あ い が な み う つ よ う に
あ じ さ い の は な の よ う に あ ゐ ん な こ こ ろ を あ わ せ う
こ ど も ら に わ た す た め ー ま も ろ う あ い す る ち き ゅ う }

G Am C D7

ひ ろ が る ね が い よ せ か え す さ け び

G Am C D7 G

わ た し た ち の み な と に ー か く へ い き は い れ な い

朗読劇の最後に歌う「波よひろがれ」
非核神戸方式の運動の中でうまれた歌です。
一番は神戸から、2番は日本中に
3番は世界へ非核「神戸方式」が
「波をうつようにひろがれ」という思いが
こめて作られた歌です。

兵庫合研の速報名は、この歌から
「波よひろがれ」としました。
平和の種が、神戸から日本中にひろがれと
いう思いを込めて作成していきます。

